



『まぼろしの邪馬台国』『島原の子守唄』

宮崎康平

宮崎康平は島原市生まれ。早稲田大学卒業後、島原で実業家として活躍するが、過労のため失明。妻の失踪も重なり失意のどん底にあって、夜泣きするわが子をあやししながら、口之津港から売られていったからゆきさんの悲話を織り交ぜて作った「島原の子守唄」は、森繁久弥や倍賞智恵子等によって全国的に広まった。

和子夫人とともに邪馬台国を探し求め、吉川英治文化賞を受賞した著書『まぼろしの邪馬台国』で、邪馬台国島原説を唱えた。これは、「潮騒への思慕」等の詩作もある氏の「長編叙事詩」と言えよう。碑には、その一節が刻まれている。

氏によるからゆきさんの物語は、死後「ピナンの仏陀」として『九州文学』に連載され、和子夫人によって『からゆきさん物語』として単行本にまとめられた。

毎年三月には「康平忌」が営まれている。